

2026 年度(令和 8 年度)学校評価自己評価表

城東中学校区	校番 50	福山市立城東中学校
最終更新日		2026年(令和 8年)4月16日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	資質 ○課題を見つけ、解決の道筋を見いだす力 <課題発見・解決力> ○根拠をもって相手を説得する力 <論理的思考力・表現力> 能力 ○自他を認め合い思いやる態度 <協働性> ○自らの行動を律し、高まろうとする態度 <自己指導力>
・中学校区や各校の児童生徒の現状や課題がよく分かった。 ・地域との連携協力の大切さがわかり、CSに向けて引き続き取り組んでほしい。	自分の考えをまとめ、他者と協働し、課題を解決しようとする力が育ちつつある。 自己有用感、自己肯定感が低い児童・生徒において、学ぶ意欲の向上に課題がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	目標を定める子 ねばり強く学ぶ子 自らを律し行動する子
		中学校区として統一した取組等	校区で目指す児童・生徒の育成に向けて、校区で統一した取組を進め、共通の指標で評価していく。 自ら考え学ぶ授業改善の実現に向けて、校区全体で児童・生徒に育む資質と能力を明確にする。系統的指導のあり方を協議の柱として、校区授業研究を活性化する。

III 自校

学校教育目標
自立・貢献

現 状
<生徒> 一人一人の違いを認め、多様な他者と共同して物事に取り組もうとする生徒、主体的に学習にとりくみ、自分にあった学び方を考えようとする生徒が増えてきている。自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを、10の考え方をもとに工夫して発表する生徒も増えた。一方で基礎基本が定着している生徒が多いと言えます、反復学習や地道な練習に粘り強く取り組むことに課題がある。
<授業> 全ての授業で生徒が思考し、他者へ伝え、深める場を意図的に設定している。昨年度行ったICTをツールとして用いた教育研究を軸に、単元構想を行い、ゴールの共有を生徒と行った上で、他者参照の環境、効果的にICTを活用しながら、基礎基本を繰り返すとともに、家庭学習との一体化を図ることで、記憶の定着と学力向上につなげる。

育成する 資質・能力	課題発見・解決力	論理的思考力・表現力	協働性	自己指導力
めざす 子ども像	1年生 課題を見つけ、見通しを持って仲間と共に解決しようとしている。	自分の意見と相手の意見を比べながら聞き、根拠を明らかにして自分の考えを、説明することができる。	相手意識を持ち、積極的に人間関係を築こうとしている。	様々な活動に進んで挑戦し、責任を持ってやりとげようとしている。
2・3年生	課題を見つけ、思考・判断した過程や結果を見通しながら、集団で解決しようとしている。	複数の意見の相違点を踏まえて、より良い考えを創り出し、根拠を明らかにして、分かりやすく説明することができる。	相手意識を持ち、積極的に人間関係を築き、より良く生きようとしている。	自らの行動や学びが適切であるか振り返りながら、より良い生き方を創り上げようとしている。
研究	テーマ 学びを自己調整する力を育む探究的な授業づくり ～学び続ける姿が日常となる学校を目指して～	内容等 ねらい・意図を明確にした単元構成をもとに、興味・関心を引き出す問いの工夫効果的にICTを活用し、主体的・協働的に探究学習を進めることができる場の設定		
めざす授業の姿	○ 自分に合った学び方を選択し、粘り強く学び続ける授業 ○ 他者との対話や協働を通して考えを深め、学びを更新し続ける授業			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
7	自ら考え学ぶ 授業づくりの 推進	★	継 続	主体的に学びに向 かい、学びを調整し ながら粘り強く学 び続ける授業づく り	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着を 図るための、小テ スト等の実施 個別最適な学びと 協働的な学びを意 図的に使いわけ、 自ら学び続ける姿 を目指したICTの 活用 家庭学習の習慣化 とノーメディア週 間の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 「全国学力学習状況調 査」において広島県 平均以上 「標準学力調査」にお いて、全国平均との 差を4ポイント以内 ノーメディア週間で の使用時間を1時間 未満 								
4	自己有用感を 育む居場所づ くりの推進		継 続	多様な個を認め合 い協働できる集団 づくり	<ul style="list-style-type: none"> 個に寄り添った支 援を行うための、 O-Uアンケートの 活用 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな「長期欠席生 徒」0(ゼロ) 長期欠席者発生率 8%未満 								
8	保護者・地域に 信頼される学 校づくりの推 進		継 続	地域・学外の人材と 協働した学校づく り	<ul style="list-style-type: none"> 地域、学外の人材 と協働した教育活 動の実施 ICTを効果的に活 用した業務改善の 実践 	<ul style="list-style-type: none"> 年間5回以上実施 仕事にやりがいを感じ ている教職員 90%以上 								

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。